

丁

三年

回数 2
筆順 一 丁

オン テイ・チヨウ
クン

成り立ち



「ぐぎ」の形をあらわした字で、今の「釘」という字のもとと字です。「ぐぎ」を「二丁、二丁、三丁……」と数えたところから、「ものを数えるときに、数字の下についていうことば」になりました。

今では、町を分けて、「二丁目、二丁目……」というようにつかわれています。

そのため、「ぐぎ」をあらわすのに、「金」をくわえて「釘」という字を作りました。

〔テイは漢音、チヨウは呉音〕

使い方

▽ぼくの家は一丁目と二丁目間の横丁を入って、十メートルほどのところにあります。

▽落丁や乱丁の本は、どんなにいたんでいても、いつでも新しいかんぜんな本ととりかえてもらえます。

熟語例

▽一丁目 (大きな町をわかりやすいようにいくつかに分けて、じゅんばんに一丁目、二丁目といいます。)

▽横丁 (丁は「大通りからわきに入った通り」の形をあらわしていますので、そのいみにつかわれたものです。)

▽「横に入った道」といいます。「横丁」というのです。)

▽落丁 (むかしの本は、かためだけいんさつして、まんな中でおって二ページにしました。これを「二丁・二丁……」と数えましたから、五十丁の本は百ページの本ということになります。「丁の落ちている本」つまり「ページ」のぬけている本のことです。)

▽乱丁 (「丁が乱れている本」。つまり「ページがじゅんじよ正しくとじてない本」のことです。)

▽丁字路 (「丁」という字のように三つに分かれている道路のこと。)

使い方

▽お母さんはいつも帳場において、帳簿の帳付けをしています。そして、時々「帳面が合わない」といって、こまった顔をします。

▽わたしは、学習帳の中からたいせつだと思ふところを手帳に書きうつして、おぼえるようにしています。

熟語例

▽帳場 (店の帳付けやお金をあつかう場所。むかし、長い布でしきられていたので「帳場」といいました。)

▽帳簿 (簿は書き付け。お金やものの出し入れを書き入れる書き付け。「帳場の書き付け」といいます。)

▽帳付け (帳簿を付けること。お金やものの出し入れを書き入れること。)

▽帳面 (「帳簿の表面」といいます。ことばで、帳簿に書きこまれた数字の計算のこと。)

▽帳面 (「帳簿」のいみにつかわれます。字を書き入れるためのもの。今は「ノート」といいます。)

▽学習帳 (学習につかう帳面。学習ノート)

▽手帳 (ポケットに入るような小さな帳面。「いつも手にする帳面」といいます。)

帳

三年

回数 11
筆順 一 帳

オン チヨウ
クン

成り立ち



かみの毛を長くのばした人の形をあらわし、「長い」といういみの「長」と、布きれのたれている形をあらわし、「布」といういみの「巾」とを組み合わせて作った字で、「長い布」といういみの字です。「へやをくぎるためにたらしした布」のことです。

むかし、店でお金をあつかうところに、この「帳」をたらしてましたので「帳場」といい、ここでつかう書き付けを「帳簿」といいました。また、帳簿の上に書きつけられた数字を「帳簿の上面」といいます。帳面」といいました。「帳面」ということばは、この「帳面」を音読みしたもので、「字を書きこむための紙をつづつたもの」をいうようになりました。